

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03309

研究課題名（和文）地域生態資源の海外研究者との協働研究

研究課題名（英文）Collaborative studies of local eco-resources with foreign researchers

研究代表者

山田 勇（Yamada, Isamu）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・名誉教授

研究者番号：80093334

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：日本の地域研究者の多くは海外へ出ることが主であり、その分海外の共同研究者に多くを負っていた。本科研では、海外の共同研究者を日本に呼び、共に日本各地の地域研究を行うことで、共通する問題点を探りだした。共同研究者に海外でやってもらっているように、日本人研究者が世話をし、共に研究対象に新たな視点を考察し、本当の意味での協働という視点から、地域研究の根本を見直した。返礼により相互に充足、協働意識、新たな関係性が生成される。日本の研究者と共同研究者との間に、地域社会のなかにあるような相互行為を再構築していくことが、新たな時代の地域研究の契機となるように思われた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、先進国の研究者と現地の人々との経済的格差、社会的格差の上に、フィールドワークという営みが成り立っているのではないかと批判がなされてきた。そのようなポストコロニアルな問題状況を乗り越えるため、映像、演劇、文学などの形態による表象も試みられている。本研究では、これからの地域研究は、先進国優位の立場ではなく、常に現地の共同研究者と同等の立場でおこなわれなければならない。そのためには日本人が海外で行っている同じことを日本で協働研究者を主にした立場で実施することが求められるという方向性に形を与えるものであった。今後の地域研究のありかたを考えるため、一つの新たな方法論を提示するものである。

研究成果の概要（英文）：Many Japanese regional researchers mainly go abroad and owe a lot to their overseas collaborators. In this study, we have invited collaborators from overseas to Japan to work together with us on area studies in Japan. We invited them to conduct regional researches in different parts of Japan, so that we could share the same goal. We started to explore the problems. Just as we have been taken care of from our co-researchers abroad, Japanese researchers took care of them, and together we were to create new research targets. We have reviewed the fundamentals of area studies from the perspective of true collaboration. The returning the courtesy generates mutual fulfillment, a sense of collaboration and new relationships. The reciprocal action between Japanese researchers and their collaborators reconstructed as it is in the community will be an opportunity for a new era of area studies.

研究分野：地域研究

キーワード：地域間比較研究 生態資源 里山 地域再生 林業 過疎地 パーマカルチャー 染織

## 1. 研究開始当初の背景

本研究はこれまで数多くの海外臨地研究をおこなってきた研究者がもっともなさねばならないと思いつつも実現が難しかった研究成果の還元についての一試案である。これまで多くの研究者が海外で仕事をし、そこには常に受け入れてくれるカウンターパートがいた。しかし調査が終わると殆どの場合関係が切れてしまう。例外的に京都大学東南アジア研究所では客員部門が1970年から設置され、半年から一年単位で、これまで多くの客員研究者を招へいすることができた。その後多くの大学で同様な制度がとられているが、絶対的にそのポストは少ない。

これまで研究代表者の山田は、世界の生態資源の調査を多くのカウンターパートと共に幅広く行ってきた。しかし、日本国内については、系統的な調査は行っていない。これは共同研究者も同様であり、ましてや海外のカウンターパートについては、数回の客員のポストを準備しただけでそれも研究者に限られ、現場で直接世話になった人々の招へいはほとんどない。

本研究では、海外のカウンターパートと以下の日本の生態資源を調査することによって、これまでにない新しい視野から、生態資源の利活用による地域の再生をも含めた内外に共通した地域の問題に対する新たな方向性をさぐることも目的としている。

### 日本の生態資源

日本の生態資源はこれまでに調査した世界各地のものに比べ古く、たとえば漆などは縄文時代から各地の遺跡で発見されている。また日本の原植生が森林であることから、地域を代表する原生林が残り、その周辺には伝統的な里山や林業地、伝統村落、地方都市がある。600年近い伝統を保ち、木材以外の漆や木工などの特産物は日本独自の洗練された形で残っている。これらの分野にはそれぞれ優れた研究があり、木材関係では須藤護の『木の文化の形成』や宮本常一を初めとする民俗学関係の研究、さらには民芸運動へとつながる柳宗悦の著作がある。また、人類学的研究としては内堀基光の特定領域研究「資源人類学」の研究がまとまっているが、本研究のように生態系に基盤をおき人間との相関のなかで「生態資源」としてモノや場をとらえる見方はこれまで日本ではなされていなかった。

また、日本は島国であることから、世界屈指の水産王国でもある。これは東南アジア海域のウオーラセア区と匹敵し、そこに住むバジャウの人々を招いて日本各地をまわるとは双方にはじめての体験となり、地域の壁を破る発想が生まれる可能性がある。牧畜業は北海道に特化して発達したものが多く、帯広を中心にさまざまなタイプの酪農家をまわることになる。染織に関しては、日本ほど古くからさまざまな織物技術が発達した国も珍しい。全国に点在する古くからの織物産地を訪ね、同じように東南アジアで織物に従事する人と意見交換をする。(図1、2 調査地域図)。いずれの地域も長い伝統を保持するため、共通した後継者不足や生態資源劣化の問題をかかえている。

こういった現場を海外の専門家と調査することは、日本人、海外からの専門家双方に新たな目を開かせ、「地域の再生」という難問に対処する共通の地盤をつくることになる。

## 2. 研究の目的

海外でフィールドワークを行った研究者の社会的還元は極めて遅れている。とりわけカウンターパートへの成果還元は殆どなされていない。日本人研究者が海外で調査をするのと同じような逆の立場を日本人がカウンターパートとして海外の研究者と日本の生態資源の研究の深化と拡大を図り、アジアからユーラシアの中間にある日本の生態資源を位置づけ、内外に共通する地域再生への新たな方向を探ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

この計画はこれまで絶対的に不足していたフィールドワークの社会的還元と日本の生態資源研究を改善するため、海外研究協力者による日本の生態資源研究を行う。まずカウンターパートを日本へ2週間招き、日本の生態資源の現場を日本人研究者と調査する。現場は、「縄文遺跡」から始まり、「原生林」、「林業地」、「里山」、「特産林産物」、「水産業」、「牧畜」、「染織」、「伝統村落と市」、最後に「被災地」を調査する。これによって長い歴史を持つ日本の生態資源の現場からの情報と、海外での情報があわさり、ユーラシアから東南アジア海域にかけての広大な地域の中での日本の生態資源の位置づけが出来る。最終年に国際会議を開催、生態資源を軸にした地域再生の課題を討議し、それぞれの現場へもちかえる。写真を主にしたテーマごとの小冊子を生態資源資料として二ヶ国語で出版する。

## 4. 研究成果

日本の地域研究者の多くは海外へ出ることが主であり、その分海外の共同研究者に多くを負っていた。本科研では、海外の共同研究者を日本に呼び、共に日本各地の地域研究を行うことで、

共通する問題点を探りだした。共同研究者に海外でやってもらっているように、日本人研究者が世話をし、共に研究対象に新たな視点を考察し、本当の意味での協働という視点から、地域研究の根本を見直した。返礼により相互に充足、協働意識、新たな関係性が生成される。日本の研究者と共同研究者との間に、地域社会のなかにあるような相互行為を再構築していくことが、新たな時代の地域研究の契機となるように思われた。

山田はインドネシアの沈香協働研究者、マタラム大学の Tri Mulyaningsih 准教授と共に、日本の香文化の中心の京都や大阪を訪問し、インドネシアで採られた沈香がいかに長く日本の香文化として使われているかを調査した。

また中国の共同研究者である四川大学の羅二虎教授と共に日本の縄文遺跡を訪ねて、中国と日本の研究方針の差について議論した。

さらに、雲南大学の尹紹亭教授と日本の茶と災害地を調査し、復興の在り方を議論した。最後に中国の貴州省における最近の茶業の振興を調査し、政府のバックアップによって、かつての貧困地が今や中国有数の富裕省になった現状を調査した。

研究分担者からの報告は以下の通りであった。

長津は、2016年度～2017年度について、インドネシア科学院(LIPI)、ハサヌディン大学、シンガポール国立大学において、東南アジア海域の生態資源研究の共同作業に関する打合せと資料調査をおこなった。インドネシア・南東スラウェシ州ワカトビのバジョ集落では、国際水産市場の動向に応じた海産資源利用の変遷について調査すると同時に、サンゴ礁海域のゾーニング等、独自の資源管理をおこなっている漁民から話を聞き、同人の日本招聘の可能性を探った。残念ながら先方の事情で同漁民の招聘はならなかった。

2018年度、5月京都大学での打合せに参加。過去4年のあいだ訪問し続けている宮城県気仙沼市の沿岸域の状況について報告する。その後も気仙沼市をたびたび訪問した。10月、山田勇さん、尹紹亭さん、阿部健一さんらとともに、気仙沼を訪問し、海域世界として気仙沼を捉える地域学調査、三陸地域における内陸農民と沿岸海民との文化的結び付きに関する観察調査をおこなった。他に、気仙沼市唐桑半島を訪問し、東日本大震災後の唐桑半島の沿岸環境の変化、特に防潮堤建設にともなう沿岸環境の「復興事業」によって引き起こされた変化についても観察調査をおこなった。

同調査時には、気仙沼市に隣接する岩手県折壁の室根神社で行われる室根大祭を参与観察した。この時の室根大祭は、1300年記念祭として実施された。室根大祭は、3～4年に一度、旧暦の閏年の翌年に開催される。

同祭りには、気仙沼市唐桑東舞根の畠山信氏の案内を受けながら参加した。畠山氏ら東舞根の住民は、標高約900メートルの室根山を山あて(漁場の位置確認)の印として海水を汲み上げ、それを煮て塩をつくる。この塩は同地区の海の守り神である瀬尾律姫神社にいったん奉納された後、室根山に運ばれ、室根神社に奉納される。室根大祭で東舞根の住民は「御塩献納役」を担う。同役は、室根山8合目にある室根神社から神輿を山裾に運び降ろすさいにその道を塩で清める。他に、神輿を担ぐ「陸尺(りくしゃく)」や陸尺らにお粥をふるまう「粥献司役」などの神役(じんやく)が、祭りの主要アクターになる。「御塩献納役」は海の民、「陸尺」等は陸の民である。このように、室根大祭は、天皇家の東北進出を起源としつつも、その内容がすぐれて民生的な海と陸それぞれの民衆間の友好関係を示していると解釈することができた。

2019年度は、11～12月、気仙沼市から防潮堤をめぐる諸問題に活躍されてきた在地の知識人を招聘し東洋大学において公開講座「復興を生きる - 東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦」を開催した(招聘費用を本科研にて負担)。2月にはこれに連続するかたちで、気仙沼市の防潮堤と地域づくりに関するシンポジウムを地球環境学研究所との共催で実施する予定であったが、新型コロナウイルス流行拡大のため、次年度に延期になった。他に1月には、気仙沼市のインドネシア人技能実習生の職場・アパートなどを訪問。水産業を基盤とする同市の多文化共生に関する調査をおこなった。

これまでの気仙沼地域での調査は、海域論を切り口として同地域の生態資源を理解する作業の一環をなしてきた。先述した室根大祭を例にその内容の一端を示す。室根大祭の起源は、8世紀はじめ、京都の天皇軍勢が紀伊半島から黒潮に乗って海を渡り、蝦夷征伐のために唐桑半島に到来し、同軍勢が紀州本宮から熊野神の「分霊」を勧請したことにある。気仙沼地域は、もともとこうした黒潮を媒介に海をわたる海民によって拓かれた。以後、カツオー本釣りや味噌・醤油生産等が海を介して気仙沼地域にもたらされた。当然のことながら、沿岸住民の流入も続いてきた。気仙沼地域は、こうした人・モノ・情報が海を介して流入する黒潮海道(黒潮)の終点、あるいはここからさらに北方とのつながりを考えれば黒潮・親潮海道(黒潮)の結節点として捉えることができる。同市には現在約300人のインドネシア人技能実習生が住む。「マルシップ」と称される一時的滞在の外国人漁船員は2000人を越すといわれる。気仙沼市では、これら外国人労働者が比較的良好な待遇・関係のもとで受け入れられていることも注目される。一連の気仙沼調査では、同地域の文化的社会的混濁性が、気仙沼地域のこうした海域的性格を文脈として生成してきた生態資源であるとする解釈を試みている。

内藤は2019年度、マレーシア半島部、スランゴールに本部のある先住民族問題研究センター(Center for Orang Asli Concerns)の代表コリン・ニコラス博士を日本へ招聘し、京都大学東

南アジア研究所にて山田勇先生とともに地域生態資源研究に関する打合せと資料調査、京都北山の森林利用の現状、災害による影響などを調査した。またコリン博士が長年取り組んできているマレーシアの先住民族がおかれた状況との比較研究の一貫として、北海道平取を訪問し、伝統儀礼であるチブサンケ（舟おろし）とアイヌの伝統芸能である、イタの制作やオヒョウによるカゴあみ、博物館などの見学を通じ、北海道におけるアイヌの伝統的な森林資源利用、そして現在の利用状況、問題点などについて調査、意見交換をアイヌの伝統継承されている方々とおなつた。またコリン博士によるマレーシアの先住民族の権利、土地の慣習権についての講演をおこなつた。

落合は、2017年2月、ラオス国立大学社会科学部を訪問し、研究打ち合わせを行った。さらに、ルアンナムター県でタイ・ダム人集落、タイ・デー人集落、ランテン人集落を訪問、染織工芸実践者を対象に観察と聞き取りを実施した。その結果、観光開発や特産品開発の影響下で、木綿布や絹布の制作方法や販売方法が変容していることを確認した。

2017年度の活動は以下の通りであった。

1) 2017年8月、ラオス、ルアンパバーン市を訪問し、博物館 TAEC(Traditional Arts and Ethnology Centre)で研究者招聘についての打ち合わせを行った。また、同館のミュージアムショップやハンディクラフト組合などで、染織工芸製品の制作や販売の実態について観察や聞き取りを実施した。

2) 2017年9月、博物館 TAEC の共同代表である Tara Gujadhur 氏、Thongkun Souvittaly 氏を7日間に渡って招聘し、京都市や大阪市の博物館や染織工房などで、手工芸の継承や展示実践の現状について見学や聞き取りをおこなつた。訪問先は、国立民族学博物館、河井寛次郎記念館、織成館、紫織庵、ギャラリー啓、パティック・イシス、Adorn などである。

3) 2017年12月、ラオス、ルアンパバーン市の博物館 TAEC において、同館企画展「Seeds of Culture: From Living plants to Handicrafts」の関連イベントとして、「Behind the Seeds Lecture Series #4, Journey to the Islands: Toraja in Sulawesi and T'boli in Mindanao」と題した講演と質疑応答をおこなつた。また、ルアンパバーン市内でハンディクラフト組合や染織工房を訪問し、染織製品の販売実態と工房間の連携などについて観察と聞き取りを実施した。

2018年度には、8月、ラオス、ルアンパバーン市の博物館 TAEC において、同館企画展「Seeds of Culture: From Living plants to Handicrafts」関連イベントとして、「Behind the Seeds Lecture Series #5, Fiber from the Forests and Fields: Piat from northern Laos and Kudzu from Japan」と題した講演と質疑応答をおこなつた。

2019年度は、10月、和食文化学会第2回研究大会に参加し、「ラオス北部タイ系住民の魚類発酵食品をめぐる食文化-ふなずしとの比較から」と題した研究発表と質疑応答をおこなつた。また、鶴岡市内の食品関連企業および温海地区農村域での現地見学と、山形在来作物研究会主催の公開シンポジウムに参加した。

阿部は、モンゴルからネルグイ氏を、東ティモールからエゴ・レモス氏を招へいした。二人とも現地で環境保全を主な目的とする NGO の創設者である。ネルグイ氏は宗教家であり畜産業の地域の指導者。エゴ・レモス氏は、教育者でありかつ国民的な歌手。ふたりの活動は多岐にわたるが、自然を大切にしなければよりよび生活はできない、という共通の考えを持っている。二人は、たとえばネルグイ氏は日本の仏教関係者や畜産農家との対話、エゴ・レモス氏は小学生や高校生への講演、そして音楽を通じて、自分たちの考えを日本社会と共有する活動を行った。この招へい事業を通じて、われわれの研究活動の幅は間違いなく拡がり、社会に寄り添う学問としてトランスディシプリナリーな視点を深化させることにもなつた。一方、招聘した二人は、帰国後も日本での経験・交流の成果を活かし、母国での活動を発展させることになつた。エゴ・レモス氏は2019年度の第10回 KYOTO 地球環境の殿堂の特別賞を受賞している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 14件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 生態資源を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 沈香の森をめぐる人びと - 東カリマントン二〇〇七年の記録	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 85-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 「ナマコの知」をもとめて 東アジアにおけるナマコ世界の多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 19-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 瓦解を生きる術 - マツタケに学ぶ柔軟さ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品・食品添加物研究誌 FFI ジャーナル	6. 最初と最後の頁 259-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 ふたつの塩くじら	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1239-1241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 9
2. 論文標題 関係外部者を受け入れる地域の体制の形成: 高知県大豊町東豊永地区での経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Collaboration	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 -
2. 論文標題 マレーシア・サラワク州ミリ省の村々で進む人口減少とその背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 土地所有権の空洞化	6. 最初と最後の頁 252-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広、松本美香	4. 巻 -
2. 論文標題 山村を未来へ継ぐ 高知県大豊町の過去と未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 231-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部健一	4. 巻 19
2. 論文標題 媒介者として：課題解決から価値創造へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ボランティア学研究	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部健一	4. 巻 -
2. 論文標題 ヴァナキュラーな地球環境問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 257-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iriana W., K Tonokura., G. Inoue, M. Kawasaki., O. Kozan, K. Fujimoto, M. Ohashi, I. Morino, Y. Someya, R. Imasu, MA. Rahman., D. Gunawan	4. 巻 8437
2. 論文標題 Ground-based measurements of column-averaged carbon dioxide molar mixing ratios in a peatland fire-prone area of Central Kalimantan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi:10.1038/s41598-018-26477-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 生態環境が育む北アジア牧畜の特徴 西アジア牧畜との対比から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 寒冷アジアの文化生態史	6. 最初と最後の頁 92-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 ユーラシア乾燥地帯での牧畜民にとっての生態資源とその変貌 乳加工技術を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 - モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 205-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 129
2. 論文標題 見えざる鯨から問う	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 2
2. 論文標題 みずからの歩みをつづる 沿岸捕鯨の歴史を見なおす試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石巻学	6. 最初と最後の頁 53-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 108
2. 論文標題 プロが支える鯨食文化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 市川昌広	4. 巻 -
2. 論文標題 マレーシア・サラワク州ミリ省バラム川中・上流域の村々で進む人口減少とその背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 土地所有権の空洞化－東アジアからの人口論的展望	6. 最初と最後の頁 252-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広・佐々木綾子	4. 巻 110
2. 論文標題 タイ北部農山村における都市への人口移動と過疎化の概況	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本熱帯生態学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Do Tran Van, Trung Phung Dinh, Yamamoto Mamoru, Kozan Osamu, Thang Nguyen Toan, Thuyet Dang Van, Thang Hoang Van, Phuong Nguyen Thi Thu, Khuong Ninh Viet, Cam Ngo Van	4. 巻 37
2. 論文標題 Aboveground biomass increment and stand dynamics in tropical evergreen broadleaved forest	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Sustainable Forestry	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10549811.2017.1375959	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tran Van Do, Tamotsu Sato, Vo Dai Hai, Nguyen Toan Thang, Nguyen Trong Binh, Nguyen Huy Son, Dang Van Thuyet, Hoang Van Thang, Trieu Thai Hung, Tran Van Con, Osamu Kozan, Ngo Van Cam	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 Aboveground biomass and tree species diversity along altitudinal gradient in Central Highland, Vietnam	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tropical Ecology	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Neoh Kok-Boon, Bong Lee-Jin, Muhammad Ahmad, Itoh Masayuki, Kozan Osamu, Takematsu Yoko, Yoshimura Tsuyoshi	4. 巻 12
2. 論文標題 The effect of remnant forest on insect successional response in tropical fire-impacted peatland: A bi-taxa comparison	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0174388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0174388	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 87(10)
2. 論文標題 ミルクが結ぶシルクロード：日本への道	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 966-967
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合雪野	4. 巻 -
2. 論文標題 植物と体験の資源化 東南アジア島嶼部におけるジュズダマ属の利用をめぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 177-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部健一	4. 巻 -
2. 論文標題 ヴァナキュラーな地球環境問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 255-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部健一	4. 巻 -
2. 論文標題 豊かさにつながり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精選現代文B 新訂版	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Isamu Yamada, Kenji Uchida and Hidemasa Motoshima	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 The characteristics of milk processing system in Kyrgyz Republic and its historical development	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11465/milk.65.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 65(6)
2. 論文標題 食事の重要な食材として浸透するチーズ 非乳文化圏・南米ペルーの乳加工と乳製品	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 デーリイマン	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 65(11)
2. 論文標題 ヨーロッパの熟成チーズの源流をルーマニアに訪ねて 山岳地帯の移牧民が育んできた食の文化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 デーリイマン	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alim Setiawan Slamet, Akira Nakayasu, Masahiro Ichikawa	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Small Vegetable-Farmers' Participation on Modern Retail Market Channels in Indonesia: the Determinants and the Impacts on Their Income	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Agriculture (MDPI)	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 1
2. 論文標題 終焉なきフロンティアとしての漁業	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東南アジア地域研究入門, 山本信人監修, 井上真編, 慶応大学出版会	6. 最初と最後の頁 133-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 ナマコとともに モノ研究とヒト研究の共鳴をめざして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間の営みを探る, 秋道智彌・赤坂憲雄編, 玉川大学出版部	6. 最初と最後の頁 114-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Akamine	4. 巻 -
2. 論文標題 Urban Foodways and Communication: Ethnographic Studies in Intangible Cultural Food Heritages around the World	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Shark Town: Kesenuma's Taste for Shark and the Challenge of a Tsunami, Lum, Casey Man Kong and Marc de Ferriere le Vayer eds. Rowman and Littlefield	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長津一史	4. 巻 -
2. 論文標題 海民の社会空間 東南アジアにみる混淆と共生のかたち	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 小さな民のグローバル学 共生の思想と実践をもとめて 甲斐田万智子・佐竹真明・長津一史・幡谷則子(編)上智大学出版会	6. 最初と最後の頁 280-305
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagatsu, Kazufumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Maritime Diaspora and Creolization: A Genealogy of the Sama-Bajau in Insular Southeast Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tara Gujadhur and Yukino Ochiai	4. 巻 7
2. 論文標題 Textile: The Living Traditions of Laos, Seeds of Culture	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oh! Magazine	6. 最初と最後の頁 35-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukino OCHIAI and Tara Gujadhur	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 Job 's Tears: A Natural Beads in Textiles of Mainland Southeast Asia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Textile Asia	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Neoh, K.-B., Bong, L.- J., Muhammad, A., Itoh, M., Kozan, O., Takematsu, Y., Yoshimura, T.	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 The effect of remnant forest on insect successional response in tropical fire-impacted peatland: A bi-taxa comparison	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0174388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0174388	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tran Van Do, Tamotsu Sato, Vo Dai Hai, Nguyen Toan Thang, Nguyen TrongBui The Doi, Hoang Van Thang, Trieu Thai Hung, Tran Van Con, Osamu Kozan, Le Van Thanh, Ngo Van Cam Binh, Nguyen Huy Son, Dang Van Thuyet,	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 Aboveground biomass and tree species diversity along altitudinal gradient in Central Highland, Vietnam	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tropical Ecology	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tran Van Do, Osamu Kozan, Le Xuan Truong, Nguyen Toan Thang, Dang Van Thuyet, Phung Dinh Trung and Nguyen Thi Thu Phuong	4. 巻 9
2. 論文標題 Fine root Production in Evergreen Broadleaved Forest, Northeast Vietnam	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Open Journal of Plant Science	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 梶田 諒介・甲山 治	4. 巻 35
2. 論文標題 1500年-1938年のインドネシアの地震の地震動の記録 - オランダ植民地時代史料に記述された地震動のロッシ・フォレル震度階による整理 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 自然災害科学	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 TV Do, NV Cam, T Sato, NT Binh, O Kozan, NT Thang and R Mitl&ouml;hner	4. 巻 28
2. 論文標題 Post-Logging Regeneration and Growth of Commercially Valuable Tree Species in Evergreen Broadleaf Forest, Vietnam	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Tropical Forest Science	6. 最初と最後の頁 426-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 N. T. Thang, T. Van Do, T. Sato, N. T. Binh, O. Kozan, N. V. Cam	4. 巻 48
2. 論文標題 Yield and Nutrient Content of Chestnut ( <i>Castanopsis piriformis</i> ) in Natural Central Highlands Forests, Vietnam	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Small-scale Forestry	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Md R Ali, B Das, Md H Islam, Md A Momin and O Kozan	4. 巻 7
2. 論文標題 Solar energy based lighting and ventilation system for rural poultry house in Bangladesh	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Agricultural Machinery and Bio-resources Engineering	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Neoh, K.-B., Bong, L.- J., Muhammad, A., Itoh, M., Kozan, O., Takematsu Y. and Yoshimura, T	4. 巻 45
2. 論文標題 The impact of tropical peat fire on termite assemblage in Sumatra, Indonesia: reduced complexity of community structure and survival strategies	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Environmental Entomology	6. 最初と最後の頁 1170-1177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計40件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 19件）

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Landscapes of Pastoralism in Balkans: Conserving natural and cultural tradition for next generation
3. 学会等名 International Conference Pastoralism: Traditions and Modernity Anthropological, Ecological and Social aspects (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akamine Jun
2. 発表標題 Inheriting Sea Cucumber and Shark Fin Foodways in the Age of Environmentalism
3. 学会等名 SYSU Second International Conference on Food and Culture: People, Ecology and Food (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akamine Jun
2. 発表標題 Multiplicities of Japanese Whaling: A Case Study of Baird's Beaked Whaling and its Foodways in Kanto and Tohoku regions
3. 学会等名 Across Cultures and Species: New Histories of Pacific Whaling (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 高度経済成長期の食生活の変化を聞き書く 食生活誌学のこころみ
3. 学会等名 日本オーラルヒストリー学会第16回大会記念シンポジウム「食に聴く・食を書く 食の媒介者たちをめぐる歴史と社会」
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 Minke Whale Meat Supply Chain in Contemporary Norway
3. 学会等名 Whaling Activities and Issues in the Contemporary World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 牧畜・乳文化から日本中山間地の活性化を考える
3. 学会等名 日本学術会議食料科学委員会畜産分科会・日本草地学会共催公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 甲山治
2. 発表標題 泥炭火災適応策としての再湿地化と在来種植林による泥炭生態系の回復
3. 学会等名 第28回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akamine, Jun
2. 発表標題 Call for Responsible Consumption of Sea Cucumbers for Conserving Cultural Heritage in Asia
3. 学会等名 Chinese Overseas: Global and Local Dynamics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osamu Kozan
2. 発表標題 Monitoring of Greenhouse Gasses and Particulate Matters and Assessment of Health Impact of Haze Pollutants caused by Peatland Fires in Indonesia
3. 学会等名 Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osamu Kozan
2. 発表標題 Utilization of ENSO prediction data around Indonesia
3. 学会等名 Joint Symposium on Tropical Peatland Restoration Responsible Management of Tropical Peatland following up Jakarta Declaration (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 世界農業遺産とその活かし方：地域の未来をみんなで考える
3. 学会等名 世界農業遺産・日本農業遺産認定に向けた市民セミナー 氷見らしさを未来に活かす 世界農業遺産について (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 媒介者Mediatorとして東ティモールのコーヒー事業に関わる 課題解決から価値創造へ
3. 学会等名 国際ボランティア学会 第19回大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mikitaro Shobayashi, Ian Hodge, Parviz Koohafkan, Chirman, Luo Liangguo, Kenichi Abe
2. 発表標題 How to promote sustainable agriculture through policy? Lessons and Options(round table)
3. 学会等名 国際コモンズ学会2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 KLaSiCa 社会変革のための学習・教育
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「地球環境変化研究の転換期における人間的側面研究の強化と推進に向けて」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Comparative studies of Kitayama forestry area in Japan and tropical peat swamp forest area in Indonesia: Traditional way of forest management by local basis and disturbance by globalization
3. 学会等名 Myanmar Way of Agriculture and Rural Development(MWARD): Considering the approach of GNH (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Comparative area studies of high mountainous areas and lowland tropical areas in Asia: Poor resources with good management in Ladakh and rich resources with poor management in tropical Southeast Asia
3. 学会等名 International Workshop on Role of University in Promoting of GNH in Practice and Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川昌広
2. 発表標題 マレーシア・サラワク州パラム川流域村落における空戸の増加と人口移動の要因
3. 学会等名 第26回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 “ The Role of Samas/Bajaus in Sea Cucumber Trades in the Sulu Sultanate Economy: Towards a Reconstruction of Dynamic Maritime History in Southeast Asia
3. 学会等名 International Conference on Bajau-Sama ' Diaspora & Maritime Southeast Asian Cultures (ICONBAS-MASEC 2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Beyond the “ Super Shark ” Myth: Promoting Sustainable Shark Foodways in Japan and Asia
3. 学会等名 Exchange and Dynamism of Food Culture in Asia: Past, Present and Future, The 6th Conference on Foodways in Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 アムド系チベット牧畜民のミルクの世界
3. 学会等名 国際シンポジウム「チベット牧畜民の「今」を記録する」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masahiro Hirata
2. 発表標題 Flexibility of milk processing in Amdo Tibetan pastoralist
3. 学会等名 14th Seminar of International Association for Tibetan Studies (IATS) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 「聞き書き」の可能性
3. 学会等名 聞き書き甲子園15周年記念イベント
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 トークセッション 「聞き書き」の未来-人と人、人と自然とつなく-
3. 学会等名 第15回 聞き書き甲子園フォーラム 15周年記念イベントPart2 「聞き書き」の可能性-新たな価値の探求-
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 アネクメーネがエクメーネになるとき
3. 学会等名 地球の住まい方 オギュスタン・ベルク 『理想の住まい 隠遁から殺風景へ』出版記念研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 賀茂川の水が運ぶ歴史と文化
3. 学会等名 文化資源セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 高校生とともに考える「環境」
3. 学会等名 第70回地球研市民セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 パネルディスカッション「地球の想像力 人新世時代 (Anthropocene) の学び
3. 学会等名 第8回地球研東京セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 講演「世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域が選ばれた理由」
3. 学会等名 世界農業遺産 高千穂町シンポジウム 第18回地球研地域連携セミナー「世界農業遺産-かえなければならないものと、かえてはならないもの-」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenichi Abe
2. 発表標題 The Impact of GIAHS Nomination and Designation on Agricultural Communities
3. 学会等名 Agricultural Technology and Cultural Heritage (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 相互理解から地球環境問題の解決へ
3. 学会等名 公益社団法人りそなアジア・オセアニア財団(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 2050年の世界と日本-地域研究の推進体制
3. 学会等名 2016年度JCAS年次集会<公開シンポジウム>
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 世界農業遺産が期待するもの
3. 学会等名 国東半島宇佐地域 世界農業遺産シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 世界農業遺産のブランド力を活かした地域活性化について
3. 学会等名 Forum on Tea and GIAHS (世界農業遺産フォーラム)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 地域の豊かさと力 ~グローバルなヴァナキュラリズム~
3. 学会等名 愛媛大学社会共創学部開設記念式典
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 日常生活と地球環境
3. 学会等名 NHK文化センター京都教室
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 小さな国から見える世界
3. 学会等名 第二回 Fair Trade Coffee 勉強会
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 ペルー・アマゾンの『川の民』の生活とREDD+：公平な利益配分にむけた試案
3. 学会等名 第26回 日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部健一
2. 発表標題 洛北の水と文化をめぐる考察
3. 学会等名 洛北文化資源共同研究合評会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yukino OCHIAI
2. 発表標題 Journey to Karen villages of Thailand and Myanmar
3. 学会等名 Seeds of Culture: From Living Plants to Handicrafts (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukino OCHIAI
2. 発表標題 Journey to Akha villages in Thailand, Myanmar and Laos
3. 学会等名 Seeds of Culture: From Living Plants to Handicrafts (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 山田勇、赤嶺淳、平田昌弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	

1. 著者名 赤嶺淳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 284
3. 書名 鯨を生きる 鯨人の個人史・鯨食の同時代史	

1. 著者名 平田昌弘	4. 発行年 2017年
2. 出版社 デーリィマン社	5. 総ページ数 116
3. 書名 デーリィマンのご馳走	

1. 著者名 平田昌弘	4. 発行年 2016年
2. 出版社 2015年5月16日・17日公開シンポジウム事務局	5. 総ページ数 254
3. 書名 公開シンポジウムの記録 家畜化と乳利用その地域的特質をふまえて：搾乳の開始をめぐる谷飯説を手がかりにして	

1. 著者名 甲斐田万智子・佐竹眞明・長津一史・幡谷則子（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 上智大学出版会	5. 総ページ数 390
3. 書名 小さな民のグローバル学 共生の思想と実践をもとめて	

1. 著者名 大元鈴子、内藤大輔、佐藤哲 編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京大学出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 国際資源管理認証制度	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長津 一史  (Nagatsu Kazufumi)  (20324676)	東洋大学・社会学部・教授   (32663)	
研究分担者	平田 昌弘  (Hirata Masahiro)  (30396337)	帯広畜産大学・畜産学部・教授   (10105)	
研究分担者	内藤 大輔  (Natio Daisuke)  (30616016)	京都大学・農学研究科・助教   (14301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	落合 雪野 (Ochiai Yukino)  (50347077)	龍谷大学・農学部・教授  (34316)	
研究分担者	甲山 治 (Kozan Osamu)  (70402089)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授  (14301)	
研究分担者	阿部 健一 (Abe Kenichi)  (80222644)	総合地球環境学研究所・研究基盤国際センター・教授  (64303)	
研究分担者	市川 昌広 (Ichikawa Masahiro)  (80390706)	高知大学・教育研究部自然科学系農学部門・教授  (16401)	
研究分担者	赤嶺 淳 (Akamine Jun)  (90336701)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授  (12613)	